

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年6月30日現在

今月の重点活動

■えだまめ **えだまめ塾・機械化実演会開催!**

えだまめ新規栽培者の掘り起しを行うため、関係機関と連携し、6/6、6/22に第1回えだまめ塾を開講し、普及指導課は、えだまめ栽培の基本技術について指導を行った。

播種（移植）時の省力化を推進するため、関係機関と連携し、えだまめ機械化実演会（参加者約50名）を行い、省力化体系の提案及び移植機用の育苗指導を行った。今後、8月上旬に収穫機による収穫実演会を実施予定。



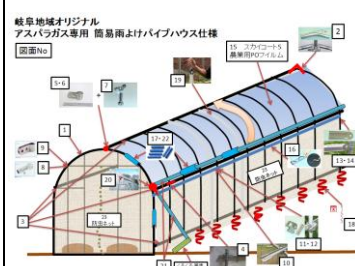
実演会の様子

活力ある新産地づくり

■アスパラガス **岐阜地域オリジナルの「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」が誕生!**

平成17年に羽島市で栽培がスタートしたアスパラ栽培は、その後さまざまな工夫が重ねられ、今回、低コストで導入負担が少ない、岐阜地域オリジナルの「アスパラガス専用簡易雨よけハウス」が誕生しました。7月下旬に、4棟（3.6a）ハウスを完成させ展示試験を始める。

この独自のハウスは、コストパフォーマンスが高い上に、雨による茎枯病の発生回避と防虫ネットで害虫の侵入を抑える仕様となっており、立茎栽培により安定した収量が期待される。



【簡易雨よけハウス仕様図】

売れる農畜産物づくり

■かき **着果良好**

春先の低温で生育が遅れていたが、5月の好天の影響で富有の開花期が平年より3～4日ほどの遅れにまで回復した。開花期も天候に恵まれ、ミツバチ等の活動も盛んで、着果状況は良好で、今のところ生理落果も少なく、このままでいくと着果過多となりうるので、普及指導課は7月から摘果の徹底を指導していく。



【柿の開花状況】

■にんにく **出荷に向けた乾化作業開始**

岐阜市、本巣市、山県市では、5月下旬から6月中旬にかけて収穫作業が行われ、現在は根切りしたものを乾燥室内で乾燥中である。今年度のにんにくは病害果が少なく大球傾向であり、市場や加工業者へ出荷の予定である。普及指導課は、収穫適期指導を実施した。



【乾燥庫への入庫風景】

戦略的な流通・販売

■エフスリー協議会 運営定例会開催

パルコ de 朝市を運営するエフスリー協議会では、6/13に運営定例会を開催した。今回は6次産業化アドバイザーの山瀬氏の指導を受けながら、過去3年間の実績を振り返り、今後の方向性を検討した。6/23、24には3周年記念イベントを開催し、24日からは新たに軽トラックによる移動販売を開始する。



【自身の成果を語る会員】

魅力ある農村づくり

■うすずみファーム 計画的な作付けの実施に向けて

6/8に営農打ち合わせをJAぎふ根尾支店で行い、6月の作業計画、必要な資材等の検討・確認を行った。なす(10a)、こんにゃく(40a)の植え付けは終了し、鳥獣害対策技術実証ほ(こんにゃく)のマルチ麦も1回目の植付けは5cm程度に生育している。6月は昨年作付けした、加工用トマトのほ場の片付けをおこない、ソルゴー(緑肥)の播種、にんにくの収穫を順次行う予定。

県民みんなで育む農業・農村

■アイガモ研究会 消費者の農業体験支援

6月16日に羽島市でアイガモ稲作の体験イベントが行われた。当日は朝から雨が降り、あいにくの天候であったが、県内外から消費者約120名が参加し、田植え体験、子供たちによるアイガモ放鳥が行われた。

農業普及課では、田植えの仕方の説明や、イベントの運営支援を行った。秋には収穫体験が行われる予定である。



【田植えの様子】

■真桑小学校 小学生による、まくわうりの定植

5/28 まくわうり栽培研究会員2名が講師となり、まくわうりの定植を3年生全員(140名)が一人一株ずつ行った。真桑小学校では毎年、地元の特産物として3年生を対象に真桑小学校内の畑で栽培し、夏休みにはまくわうりのシャーベットづくりを行う予定。



【まくわうり定植の様子】